

令和4年12月31日

砂川 邦裕

2022年度 審判指導者研修会(U-12選手権) 報告書

大会名：JFA 第46回 全日本U-12サッカー選手権大会

開催期間：2022年12月26日(月)～12月29日(木)

※育成指導者の集散は、12月25日集合、12月28日解散

開催地：鹿児島県／鹿児島ふれあいスポーツランド・鴨池補助競技場・白波スタジアム

参加者：指導者26名(JFA10名＋地域指導者16名)、審判員32名(北海道2名参加)

★大会を迎えるにあたり、事前研修会(Zoom)が3回行われました。

事前研修会前に、以下の資料が送られています。

「00【U18 審判員研修会】参加連絡」

「01_JFA 第46回全日本U-12サッカー選手権大会 実施要項(最終稿)」

「02_【交通費等に関する説明】U18 審判員研修会」

「03_【交通費等精算書】U18 審判員研修会_領収書_氏名」

「04_【健康チェックシート】U18 審判員研修会」

「05_コロナ対策_U18 審判員研修会」

「06_事前研修会 ZOOM URL 一覧表」

事務連絡などができるように、「審判員+INSのグループLINE」「INSグループLINE」オープンチャットを登録しています。

《事前研修会① 11月16日(木) 20:00～21:00》

研修会内容は、以下のとおりです。

(1) 事務連絡

1 集散情報 2 旅行手配 3 旅費精算 4 コロナ感染対策について 5 その他

(2) 大会までの準備

・JFA 第46回全日本U-12サッカー選手権大会 概要

・審判員、審判指導者、スタッフ位置付け

・大会スケジュール 確認

・SNSの利用について

・第2回 事前研修にむけて

1 競技規則

2 大会レギュレーション

3 大会の様子

4 1人審判法映像教材 を確認しておく

(3) 地域ごとにブレイクアウトルームで打ち合わせ、解散

《事前研修会② 12月 8日(水) 20:00～21:00》

この日までに、競技規則テストを満点にしておくことが宿題となっています。(Google formsで解答)
研修会内容は、以下のとおりです。

(1) 大会にむけての準備(質問・確認、諸連絡など)

(2) 前回の宿題

・事前に配付されていた映像(大会の様子、試合映像)から、指導者としての情報共有

※審判員と地域指導者に分かれて(ブレイクアウトルーム)で気がついたことを共有

大会を成功させるために、指導者としてできることは？

審判員が試合に向かうためにサポートできることは？（今大会では評価を点数化しない）

※8人制サッカーを採用したときのキーワードは？

⇒ 3S（フィジカル・プレー・判断）

※審判チームとしてのキーワードは？

⇒時間を意識する・雰囲気から気づく・やってみる

《事前研修会③ 12月19日（月） 20：00～21：00》

この日までに、審判員は3つの映像を確認して、自分がどのRefereeのタイプに近いか考えています。

研修内容は、以下のとおりです。

（審判員）メンバー表・公式記録について

（INS）打ち合わせ（本日の研修会の進め方）

☆ファシリテーター役をINSで行う。この後、審判員と・・・

（1）大会にのぞむ「意気込み」

（2）事前に渡してある映像から、自分はどの審判員に似ているのか？

（3）担当する試合において「大切にしたいこと」

（4）事前勉強の様子

・1人審判で「オフサイド」をどう判定するのか？

・PK方式になったときの補助審判の立ち位置は？

・相手チームのスローインとなるボールを取りに行ったら競技者がまだ競技のフィールドに戻っていないとき、どうするか？

（5）その他

・わからないこと

・不安なこと など

※ディスカッションした後に、その様子から審判員の第1印象での報告をする。

（審判割り当ての参考にしようです・・・）

○人となり ○学習と理解 ○審判員として大切にしていること

【スケジュール1日目 12月25日（日）】

17：00 集合

18：00～ 地域インストラクター 打ち合わせ

★研修テーマ 確認

（審判員）試合のために必要なことが何かを考え、努力する

（指導者）指導者の立場で大会に対してできることにチャレンジする

※「大会を成功させるために、指導者は審判員をサポートする」ことがメインとなる。

普段、地域で行っているアセスメント、インストラクターの立場とはちがうことを確認し、大会が成功するために何ができるのかを再確認。競技規則どおりに終えることを重視。

審判員に適用ミスがあった場合は、指導する。審判員のスキルアップをめざした研修会ではないことを改めて共有した。

20：00～ 全体会

・実施要項の再確認

・割り当て 発表

（審判員4人の最初の担当試合発表はJFAで、残りは地域指導者が決める）

・事務連絡

・グループ（審判員4名＋地域指導者2名）に分かれて打ち合わせ、解散





★私の担当グループですが、以下のメンバーで2日間活動しました。

地域指導者：中国 I NS+北海道 I NS (砂川)

審判員：関西 (2級, 高2), 東京 (3級, 高3), 富山 (3級, 高2), 長崎 (3級, 高3)

「ピッチにはドラマがある」…このスローガンにあるように、私たちにできることは何なのかグループ内で共有しました。ユース審判員も、明日から始まる試合にモチベーションを高めるように、指導者としての立場で打ち合わせをしました。

【スケジュール2日目 12月26日(月)】

○1次ラウンド (第1戦・第2戦)

第1戦： 9時30分キックオフ

《佐賀県代表》サガン鳥栖U-12 vs 《徳島県代表》徳島ヴォルティスジュニア

第1戦： 10時30分キックオフ

《青森県代表》五戸すずかけSCU-12 vs 《高知県代表》FCソレアード高知

第1戦： 11時30分キックオフ

《大分県代表》大分トリニータU-12 vs 《茨城県代表》鹿島アントラーズつくばジュニア

第2戦： 13時15分キックオフ

《千葉県代表》柏レイソル U-12 vs 《福岡県代表》今宿SC

第2戦： 14時15分キックオフ

《新潟県代表》ケーエフスリー vs 《三重県代表》大山田サッカースポーツ少年団

第2戦： 15時15分キックオフ

《北海道代表》北海道コンサドーレ札幌U-12 vs 《島根県代表》ピーエスバイ益田

- ・審判員4名で6試合を担当するので、審判員は1日3試合（主審または補助審判員）を行います。
- ・地域指導者が2名なので、3試合をメインで担当し指導するようにしました。もちろん、6試合を見ているので、メインとなる地域指導者の指導後にもアドバイスをしています。
- ・振り返りは時間がない中でも、ポイントを絞って行いました。時間がない場合は、帰りのバスや全体会の時間に行いました。（審判技術レベルアップの面よりも、大会を成功させるためにできることを中心に）
- ・試合が終わってすぐに審判報告書を記入していない審判員もいたので、指導しました。審判報告書の提出が全体会にありましたが、その前にはインストラクターに見せるように伝えています。
- ・審判員の研修テーマでもある「試合のために必要なことが何かを考え、努力する」ことを自分の担当試合だけでなく、審判チームとして考えるように試合前・試合後もできるよう指導しています。
- ・6試合とも、大きな問題点もなく終了しましたが、試合後の公式記録でトラブルがありました。記録員とやりとり、確認をしてサインをしています。警告のところが退場で記録され、公式記録としてアップされています。

した。夕食時にその事実に気付いたので、担当審判員に事実となぜそうなったミスが起きてしまったのか、ミスが起きないために改善するところはどこだったのか、聞き取り・指導しました。公式記録はすぐに事務局と連絡をとり、訂正してもらいました。

○全体会 19:00~21:00

大会1日目が終了して、運営側と確認したことを共有しました。

- ・ハーフタイム10分の確保
10分たらずに両チームがピッチに出ている状況がある。必ず10分確保することと同時に、チーム・選手を管理すること。
- ・ボールパーソンについて
1次ラウンドではないはずのボールパーソンがいるピッチもあったようです。試合で使用するボールを必ず確認すること。明日のラウンド16では、新しいボールを使用すること。
- ・退場者が出たときの待機スペースの運用
ピッチには運営者がいるので、どこで待機させるのか確認すること。

※グループで振り返り

(1) 審判チームとして、1日目の活動はどうであったか。

- ・主審(補助審判員)として、試合前、試合中、試合後の過ごし方はどうであったか。
- ・お互いのRefereeを見て、意見交流
- ・1次ラウンド(第1戦と第2戦)の雰囲気はどうであったか。そのチームがやりたいサッカーができていたのか。そのためにRefereeとしてできることは?

(2) 明日に向けての準備

- ・振り返りを生かして、どんなことにチャレンジするのか。目標設定など。
- ・今日までの各チームの戦績(勝ち点など)を確認し、1次ラウンド第3戦では突破がかかる試合が多くなることを確認。そのような状況で、どんなサッカーが予想されるのか、Refereeにできることは何なのか話し合うことで情報共有を行なった。

試合中のパフォーマンスはもちろん、1日目の審判員としての言動を含めて、大会2日目の審判割り当てを作成し、報告しています。

【スケジュール3日目 12月27日(火)】

○1次ラウンド(第3戦)

第3戦: 9時30分キックオフ

《大阪府代表》アバンティ茨城FC vs 《山梨県代表》ヴォンフォーレ甲府U-12

第3戦: 10時30分キックオフ

《沖縄県代表》エスペランサFC vs 《埼玉県第2代表》江南南サッカー少年団

第3戦: 11時30分キックオフ

《栃木県代表》ヴェルフェ矢板U-12 vs 《滋賀県代表》アッズーロ

○フレンドリーマッチ

13時15分キックオフ

《徳島県代表》徳島ヴォルティスジュニア vs 《鳥取県代表》鳥取KFCU-12

14時15分キックオフ

《北海道代表》北海道コンサドーレ札幌U-12 vs 《福島県代表》いわきジュニア

○ラウンド16

15時15分キックオフ

《山梨県代表》ヴォンフォーレ甲府U-12 vs 《滋賀県代表》アッズーロ

- ・1日目は審判員4名を誰とでも組ませて担当させましたが、2日目は1日目の様子からペアを決めて担当させました。そうすることで、昼食時間や振り返りの時間を確保しました。実際には時間的に厳しいところもあったので、バスの中でも振り返りは行いました。

- ・ユース審判員の試合中のパフォーマンスは、1日目を終えての反省を生かしながら「やってみよう」とする意識があり、短期間であってもレベルアップしたものとなっていました。審判員でお互いに高め合っている雰囲気を感じ取ることはできました。この日も、全体的なパフォーマンスとして大きな問題点はなかったです。
- ・1次ラウンド第3戦では、ラウンド突破に大きな影響があるので、補助審判員としてできることをしっかり行うように指導しました。(特にベンチコントロールに関して)
- ・審判員としての姿はどうか・・・気になったこともあったので指導しています。(服装、座り方など)

○全体会 19:00~21:00

「審判と技術の協調」

- ・DREAM, JFA の理念, ビジョンなど紹介&確認

⇒日本のサッカーがめざすものとは何か, 「Japan's Way」で日本のサッカーをさらに発展させる

⇒三位一体(代表チーム強化・ユース育成・指導者育成) + 普及の4本柱で強化していく。

⇒今よりもはるかにサッカーを愛する強固な地層(ファミリー)を築いて、アマチュアのピラミッドを大きくしていく。

- ・「クリエイティブでたくましい選手の育成」とは?

⇒サッカーの技術だけでなく、審判員にも求められているものとは何かを大切にしているか

※グループで discussion (ユース審判員4人で1グループ)

テーマ①「理想の審判について」

テーマ②「選手に求めたいこと」

- ・自分のサッカー経験の中で、どんな審判をめざしたいのか?
- ・日常の活動で感じていることは?
- ・その他



話し合いについては、制限時間(10分)の中でも、しっかり行われていました。

ユース審判員の発表では・・・

テーマ①について

「空気がたいな存在(審判員がいなくても、選手・チームでサッカーができる)」

「Players First を大切にした審判」 など

テーマ②について

「ごまかすことがない選手でいてほしい」

「笛がなるまでプレーしてほしい」

「フェアにタフな選手」

「リスペクト精神を大切にする選手」 など、

ユース審判員も、この講義からいろんな考えから新しい気付きをもつことができていました。

講義終了後・・・

(1) 本日の試合で運営側と話題になったこと(情報共有)

(2) 明日について

- ・準決勝, 決勝を担当する審判員6名の発表(北海道より二谷さん選ばれました)
- ・フレンドリーカップについての確認
- ・事務連絡



【スケジュール4日目 12月28日(水)】

9:00~12:00で実施

- ・44試合(8ピッチで実施) 10分 - 3分 - 10分 PK方式(1人)
- ・交代自由, ビブス着用可, メンバー表はなし
- ・スマイルストッキング着用可
- ・ボールはチームが持ち寄る
- ・補助審判なし

地域指導者は、8ピッチに2人ずつ配置となり、審判員に指導する。

この日は、大会を成功させるために働きかけるよりも、ユース審判員にこれからのステップアップを考えた指導を重視して研修を進めた。

12:30 解散

【帰宅後】

- ・アセスメントレポート提出 ⇨ 12月31日（土）まで
自分はもう一人の地域指導者と相談して、6試合分をアセスメントレポートで提出しました。
- ・旅費精算書提出 ⇨ 12月31日（土）まで

☆研修会を終えて☆

今回の研修会は3年ぶりに行われました。今もコロナ禍の終息には至っておらず、参加者の安全を確保するための様々な取組や配慮が求められている中、研修会に参加させていただいたことに感謝しています。

この研修会には2度目となりましたが、前回とはいろんな意味で「大会を成功するために、ユース審判員をどのようにサポートし、指導者としてできることは何なのか」考えながらの研修となりました。地域で行ってきた指導の観点とは違って新鮮なものを感じ取ることができました。

4年に1度のサッカーの祭典である「FIFA ワールドカップカタール2022」が終わって間もないこともあり、注目された大会でもありました。選手の成長はもちろん、試合ではチーム・選手、ユース審判員を成長させる審判員指導者という立場で、ユース審判員の指導はもちろん、共に大きな成長を感じ取れることができるように時間を共有できたことを嬉しく思いました。

地域で学んだことをこの研修会でも「自分ならこうする」と問い続けながら、研修会に参加できたことに感謝いたします。この経験を活かして、新たな景色を見られるように自分自身も成長していければと思います。

最後になりましたが、JFA 審判部の皆様、鹿児島FA の皆様、本大会の開催にあたりご支援・ご協力をしていただいた皆様、研修会に参加を助めていただいた北海道FA 審判部の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

